

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	嬉野市立久間小学校
1 前年度 評価結果の概要	○学力の向上：文章の読解力、表現力に課題があった。 ○心の教育：いじめ事案に対応する中で、児童理解を深めることができた。今後も早期発見、早期対応に心がけていく。夢を持つきっかけとなる体験活動を継続する。 ○健康・体づくり：体づくりに対する意識の向上を図り、家庭への啓発を推進する。 ○業務改善にさらに取り組む。 ○地域コミュニティとの連携をさらに深める。
2 学校教育目標	いきいき久間っ子の育成 くま・工夫して学ぶ子 つ・強くたくましい子 こ・心やさしい子
3 本年度の重点目標	子どものよさは可能性を引き出し、やる気と夢をもたせる教育活動の推進 ～「いい顔・いい声・いい動き」笑顔いっぱい『たい』が泳ぐ学校づくり～ ①【学力の向上】○基礎基本の定着と読解力等の向上 ○新聞の活用等情報を整理し、表現力・思考力・判断力を伸ばす授業づくり ○読書活動の充実 ○ICT活用による授業実践 ②【心の教育】○ほめて育てる学級経営・生徒指導の推進 ○心に響く道徳の授業づくり ○一人一人の困り感に寄り添う特別支援教育の充実 ○学習環境・授業のユニバーサル・デザイン化 ○体験活動の充実 ③【健康・体づくり】○体力向上のための日常的な遊びや運動の習慣化 ○体育的行事の実践 ○朝食と早めの就寝を基本とする生活リズムの定着 ○健康教育、安全教育の充実 ○縦割り班活動の実践 ④【業務改善・教職員の働き方改革の推進】○業務の効率化の推進と業務遂行能力の向上

4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価				主な担当者
(1) 共通評価項目								
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	最終評価 実施結果	評価	学校関係者評価 意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践 (基礎基本の定着と読解力等の向上)	●学力向上対策評価シートに示したマイ プランの成果指標を達成した教師80% 以上	・久間小メソッドの定期的な確認 ・授業における交流タイムの実践 ・教材等への書き込みの習慣化	A	・職員会議で、久間っ子メソッドを確認する時間をとることができ、 授業の流れや交流タイムの系統表などを、学年の指導に生かすこ うができた。研究授業でも、各学年の交流タイムを見合うことがで きた。 ・学力状況調査の振り返りなどを全職員で行うことができ、全学年 を見越した学習指導の在り方を探ることができた。マイプランを達 成した教師は80%以上となり、学力向上に努めることができた。	A	・話をよく聞き、授業がわかるが、3.7で素晴らしい。これが、学校が楽しいにつながる。	工夫して学ぶP
	○家庭学習習慣の確立 (学校塾は実施されない)	○毎日、学年の目標時間を指して、家 (学童)で勉強している児童90%以上	・年3回家庭学習チェック ・家庭学習の時間の設定、内容の充実 ・自学の奨励、ノートコンテストの実施	A	・家庭学習チェックでは、回を重ねるごとに、前回の反省を生かし た家庭生活を送ろうとした様子が表れていた。自学ノート展を11月 に行い、ノートに付箋をつけて感想交流も行い、手本にすることが できた。 ・家庭学習において、学年ごとの目標時間に見合う宿題の量を考 えるという職員の意識は90%以上に向上した。児童が家で「計 画的に」家庭学習をしたと答えたのは80%にとどまった。これは、今 後、児童の実態に応じて、学級指導に生かしたい。	A		工夫して学ぶP
	○校内研究の充実 新聞の活用等情報を整理し、表現力・思 考力・判断力を伸ばす授業づくり	○新聞を活用した授業の実施や環境づ くりについて、理解し取り組んでいる職 員80%以上	・新聞を取り入れた授業の実施 ・新聞活用を通じた思考力・表現力の向 上(新聞への投稿等) ・NIEノートの取組	A	・今年度は、どの学年の児童も、新聞に親しむという目 標は達成できた。授業での活用は、試行錯誤しながらであったが、 各教科の学習指導につながるような活用を全学年で実施できた。 ・子ども佐賀新聞、西日本新聞のヤング川柳への掲載を通して、 児童の自信と作文力が伸びてきた。 ・職員の80%以上が新聞活用環境づくりを達成できたと答えて いる。来年度に生かしたい。	A	・アンケートの結果では、新聞を見たり読んだり しているのが平均が一番低い。 ・佐賀新聞で、NIE実践校研究発表は素晴らしい。 ヤング川柳も素晴らしい。	研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する 心、他者への思いやりや社会性、倫理 観や正義感、感動する心など、豊かな心 を身に付ける教育活動(心に響く道徳の 授業づくり)	○自分にはよいところがあると答える児 童90%以上 ○友だちの気持ちを考えて行動したり、 人が困っているときに進んで助けている 児童80%以上	・年間2回の人権集会の実施と縦割り活 動の充実 ・日常における児童の善行に対する賞 賛活動(あいさつ・トイレのスリッパ・靴並 べ等)	A	・自分にはよいところがあると答える児童は90%は越えなかつた が、一回目と比べて12%近く上って目標近くになった。子どもが 活躍する場が学習、スポーツの他にもあり、称賛される機会があつ た。いいねの木で人物そのものを認め合ったこともよかったと考え られる。保護者は、90%以上学校の指導を認めている。	A	・一番大切なのは自己肯定感。認められるこ とが大切。これが相手を思いやる心を育て る。	心P
	●いじめの早期発見、早期対応体制の 充実	○学校に来ることが楽しい児童を90% 以上	・児童との面談を年に1回以上実施 ・児童及び保護者に対する情報モラル講 演会の実施 ・支持的風土のある学級経営の実施	A	・児童アンケートを見ると95%を超えている。行事等を通して学校 生活を楽しむことができている。保護者は、学校の7.8の項目の 対応を認めている。	A	・学校が楽しいと学習意欲も高まり、学力向上 につながる。	心P(生徒指導)
	◎夢や目標に向かって努力しようとする 気持ちを育む教育の推進	○夢や目標をもって生活している児童 90%以上	・グローバルリーダー事業に年2回以上取り 組む ・キャリアパスポート、学級通信等での 夢や目標の紹介	A	・児童は一回目とほぼ変わらず90%近かつたが、保護者は8%近 く高まり80%に近づいた。学級新聞、PTA新聞等による、保護者へ の児童の夢や目標の発信がうまくいき保護者の目に触れる機会 が増えたためと考える。	A	・学校評価アンケート項目を「好きなことに一 生けん命取り組んでいる」でもよいのでは。	心P
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」 体力の向上のための日常的な遊びや運 動の習慣化	●授業以外で運動やスポーツを行う時 間が1週間でも420分以上の児童80%以 上 ○昼休み等以外に出て遊ぶ児童 90%以上	・縦割り共遊、がんばるマラソン、久間リ ンピック、スポーツチャレンジなど ・放送による外遊びの推奨	A	・5月と12月に運動時間調査を行った。1週間420分以上運動を する児童は、71.5%(年間)であった。「私は、歩いて登下校したり、 外で運動したり、遊んだりしている。」と答えた児童は99%であつ た。運動に関する保護者用アンケートでも100%と高かつた。マラソ ン大会、大縄大会などの学校行事に向けて昼休みも練習に取り組 む児童が多かつた。 ・委員会活動や縦割り活動を取り入れながら、児童が主体的に運 動に参加できるようにした。	A		強いP
	②「望ましい生活習慣の形成」 朝食と早めの就寝を基本とする生活リ ズムの定着	●毎日、朝食をとって登校する児童95% 以上 ●発達段階に応じた目標の就寝時刻に 布団に入る児童90%以上 低-9:00-中-9:30-高-10:00	・保健室便り等による保護者への啓発 ・児童集会での保健委員会による発表 ・家庭学習チェックシートによる朝食喫食 や就寝時刻の確認 ・全学年食育・健康教育授業の実施	A	・「早寝、早起き、朝ごはん」については、給食便りや学級通信など を通して家庭へ啓発を行った。1月の家庭学習チェックシート週間 の結果を見ると、ほとんどの児童が毎日朝ごはんを食べることが できている。2週間のうち朝食を食べない日が1日でもあつた児童 は、低学年に3名、高学年に2名いた。 ・栄養教諭による食育授業やヘルスメイトさんによる調理実習(6 年生)を行った。ふれあい弁当の日にヘルスメイトさんと一緒に 作った料理を家庭で作ってくる児童もいた。	A	・親の働き方、家庭環境等で早寝が難しくなっ ているのではないかと。(アンケート結果はよ い)	強いP
●業務改善・教職員の働き 方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間 の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校 等時間の上限を遵守	・業務記録、業務執行状況の観察をもと に、職員の業務遂行力の実態把握、改 善の推進	A	・時間外在校等時間の上限遵守については、月45時間以内と なっているが、1月末現在で職員の平均時間は33時間であつた。上 限時間の遵守に向けて、業務遂行の際のわずかな時間を短縮し たり、業務の優先順位を決めて効率よく進行したりする意識が高 まつたことが理由として挙げられる。	A	・先生の数が少ないという報道もある。働き方 改革を進めて勤務状況が改善してもらえらば と思う。	教頭
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目								主な担当者
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	最終評価 実施結果	評価	学校関係者評価 意見や提言	
◎志を高める教育	○保護者・地域コミュニティとの連携の 促進	○「コミュニティや地域の教育力を活用し た実践を計画的に行っている」教員の割 合80%以上	・久間コミ活動等地域連携活動を教科等 の年間計画に明示 ・コミュニティや関係者との早めの連絡、 打合せの実施	A	・コロナ禍の中で、実施できなかった活動もあつたが、実施したもの については充実した活動となつた。「コミュニティや地域の教育力を 活用した実践を計画的に行っている」教員の割合80%以上を達成 できた。 ・学校便りなどを通して、地域や保護者へ情報発信ができた。	A	・実践、体験活動から得るものは身につく。 ・保護者の方にもコミュニティを理解してい たいように感じる。	

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・学力向上：複数の資料を読み取ったり、それをもとに自分の考えをまとめることに課題がある。NIE教育は来年度も継続していく。(コロナ禍におけるタブレット活用スキル向上は喫緊の課題。 ・心の教育：自己肯定感の高まりが見られた。目標や夢を持ち、それに向かって努力する姿をわかりやすく示す。 ・健康・体づくり：スポーツチャレンジ等を取り入れ運動習慣の定着を図る。 ・志を高める教育：カリキュラムマネジメントにより地域連携活動の一層の充実を図る。 ・業務の効率化・働き方改革：タブレット端末の効果的な活用スキルの向上による業務の効率化を図る。プロジェクトの提案の見直しと精選を行う。
--------------------	--